
Imitation family

在原 繫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Imitation family

【Nコード】

N9680N

【作者名】

在原 繫

【あらすじ】

「なあ、「家族ごっこ」をしないか？」

派手な紅い女に導かれながら、私は生への道を歩き出した。

死にたがりの生きたがりの私に与えられた仮初の家族は皆変わり者で孤独な者ばかりで…。『疑似家族計画』に参加した変人達が繰り広げるシリアスでたまにギャグな偽物家族のおはなし。

序章

シアワセさえ求めていれば、私はずっとシアワセになんだとずっと思ってた。

だから昔の私はきっとシアワセだったんだと思う。最初のうちは。

けれど皮肉にも聡明だった私は知ってしまったのだ。

『求めれば求めるほど、ほんとうに欲しいものはなくなる』っていうことを、

だから私はその内なにも求めなくなった。そうしたらそうしていくほど私は死を求めるようになった。

（なにも望むものはないのに、可笑しな話だ）

両親が死に、私だけが生き残るなんて悪運を起こしてしまった私はその内親戚に引き取られる。

よく聞く話の親戚に苛め倒される…なんてことは一切なかった。それどころか顔も私はろくに覚えていない親戚だったのに私にとてもよくしてくれた。

安い同情と私が両親に『将来のために』なんてつまらない名目（だって私が生きるべき未来はない）で託されたお金欲しさだってことはとつくのとうに私は気付いている。だから、私は彼らにお金を押し付けて家を出た。（彼らの将来の為に使われた方がお金だって浮かばれる。間違いない）

『さよなら』って呟いてみたけど彼らには届かなかったみたいだ。

何日かふらふらと宛もなくあるいていたら、喉が渴いて身体が軋んだ。

（なにやってんだろ）

別に、どうせ死ぬんだから渴きも痛む身体も関係ない。だって求めたら失うのになんでまた生きなくちゃいけないのだ。ああめんどくさい、面倒くさい。

（そのくせ自分じゃあ死にきれない小心者はお前だろう、私。）

その内、なんか動くのもめんどくさくなる。

やっとココから解放されると、8割の安堵と2割の恐怖で溜息を吐いた頃だった。私の前にふと人影が舞い降りる。

無駄に化粧の濃い、こんな人気のなく薄暗い廃ビルに場違いに浮かび上がる派手な紅のドレスみたいな服を着た女が、マニキュアと指輪で装飾され尽くした白い手を私に突き出していた。

「なあ家族ごっこしないか？」

私は黙って自然とその手を握っていた。

そして私はまた、生への道を繋がされた。

（別に生きたい訳じゃない。）

女に手を引かれるまま歩いていく。

ちいさく心の中でそう言い訳する自分に、また死にたくなりながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9680n/>

Imitation family

2010年10月9日14時39分発行